教室開設のプロセス

① 広報・周知活動

日本語学習支援の重要性を企業や地域コミュニティに訴えかけるための広報・周知活動に取り組みます。

▼

② 日本語学習支援依頼

③ 日本語教室開設・運営支援依頼

日本語学習支援、日本語教室開設・運営支援の希望、依頼をシステム・コーディネーターが受けます。

▼

④ 支援の可否判断

▼

⑤ コースデザイン

▼

⑥ 教室開設説明会

日本語教室に興味がある近隣住民の皆さんや企業の従業員の皆さん、そして、日本語学習を希望する外国人の皆さんに集まってもらい、教室開設のお知らせ、教室の内容についての説明を行います。

教室開始!!

⑦ 対象者判定テストの実施

会話クラスに入るか、読み書きクラスに入るか、それともそれ以上のレベルかを見るクラス分けテストを行います。

⑧ 事前説明会

教室の進め方などについての説明や、自己紹介の教室活動を行います。

① 広報・周知活動

本システムは日本語学習支援の重要性を企業や地域コミュニティに訴えかけ、取り組んでもらうという役割も担っています。そのため日々以下のような広報・周知活動に取り組みます。

・パンフレットの作成・配布
・関連機関（商工会議所、交流館（文化振興財団）、区長会など）との情報交換
・ホームページ、SNS での情報発信

など

関連機関との情報交換を密にしておくことは、日本語学習支援に関心のある組織を紹介してもらうきっかけになります。また情報を発信していることにより、日本語学習支援の依頼が突然飛び込んでくることもあります。このように常にアンテナを高く張り情報を集めるだけでなく、発信もしていくことが日本語学習支援の輪を広げていくために必要なことです。

次にこのような広報活動の結果生まれた日本語学習支援依頼をどのように受け、進めていくのかを説明します。

② 日本語学習支援依頼

本システムは日本語学習支援（以下、支援）を希望する人の相談をシステム・コーディネーターが受けることから始まります。これまで以下のような団体や個人から相談がありました。

・外国人を雇用する企業
・外国人が多く住む公営住宅のある自治区
・国際交流・外国人支援をする団体
・日本語学習を希望する外国人
・すでに学習や学習支援をはじめている上記の人、団体

など

それぞれの相談者からどのような悩みを抱えて相談にやってきたか、以下のような詳細を聞き取り、そのニーズを明らかにします。

・誰を支援してほしいのか（対象地域、対象者、対象人数など）
・なぜ支援を希望するのか（目的）
・どのような支援を希望するのか（内容、方法など）
・どのくらいの支援を希望するのか（期間、頻度、目標など）

など

次に相談者にシステムの目的を以下のように説明します。本システムは公的なサービスの一環であり、明確な目的のもと構築・運用が行われてきましたので、それを理解してもらうことは支援を提供する上で重要なプロセスです。

【とよた日本語学習支援システムの目的】

本システムは、地域コミュニティの維持、向上を図るため、豊田市内に在住、あるいは在勤の外国人が円滑な日常生活を営むために最低限必要な日本語能力を習得することを支援する包括的なシステムを構築、普及することを目指します。また、外国人住民と日本人住民との接触機会を増やし、相互理解の促進および双方のコミュニケーション能力の向上を支援し、多文化共生社会の実現に寄与することを目的としています。

③日本語教室開設・運営支援依頼

日本語教室を開設してほしいという依頼があった場合、すでに述べたように本システムの支援は公的なサービスの一環でもありますから、支援の対象はきちんと見極める必要があります。そのため相談者に日本語教室開設・運営のための基本条件を確認していきます。

【日本語教室開設・運営のための基本条件】

本システムの目的や理念に賛同することを前提として、以下の条件を満たしている必要があります。

①本システムの支援対象者（とよた日本語能力判定2レベル未満）が5名以上いる。
②当該地域または企業において、日本人住民または日本人従業員が日本語パートナー（ボランティア）として日本語教室に参加する。
③本システムによる支援終了後も日本語教室を継続する予定がある。

この時点で相談者の希望とマッチしない（たとえば学習目的が日本語能力試験対策であったり、学習希望者が5人未満であったりした）場合は、日本語教室開設及び運営支援に応じられないため、その他の支援について説明します。これらのその他支援については本システムに

よる日本語教室開設・運営支援を受けているか否かに関わらず利用可能なものです。いずれも利用者に費用はかかりませんが、回数や頻度などは担当者との調整のうえで利用していただくこととなります。

【利用可能な支援】

①システム・コーディネーターへの日本語学習や日本語教室運営などの各種相談

オリジナル教材等の提供

eラーニングの紹介

② 各種講座の受講

日本語講師の紹介 ※待遇や契約トラブルなどには関与しません

など

相談者の希望が本システムの支援条件とマッチしている場合は、それに対してどのような支援が可能か具体的な提案を示すとともに、本システムから相談者の役割を伝えます。

【具体的な支援策】

①とよた日本語能力判定「対象者判定」の実施

②プログラム・コーディネーターの派遣

③日本語パートナーの募集（広域）

④参加者への事前説明会

⑤教材の提供

⑥教材等のカスタマイズ

など

【依頼者側の役割】

①担当者（連絡窓口）決定

②学習希望者の募集

③日本語パートナーの募集（組織内・近隣）

④会場確保

など

これらの役割を相談者に確認してもらい、了承を得ることができてはじめて日本語教室開設・運営の依頼があったこととなります。

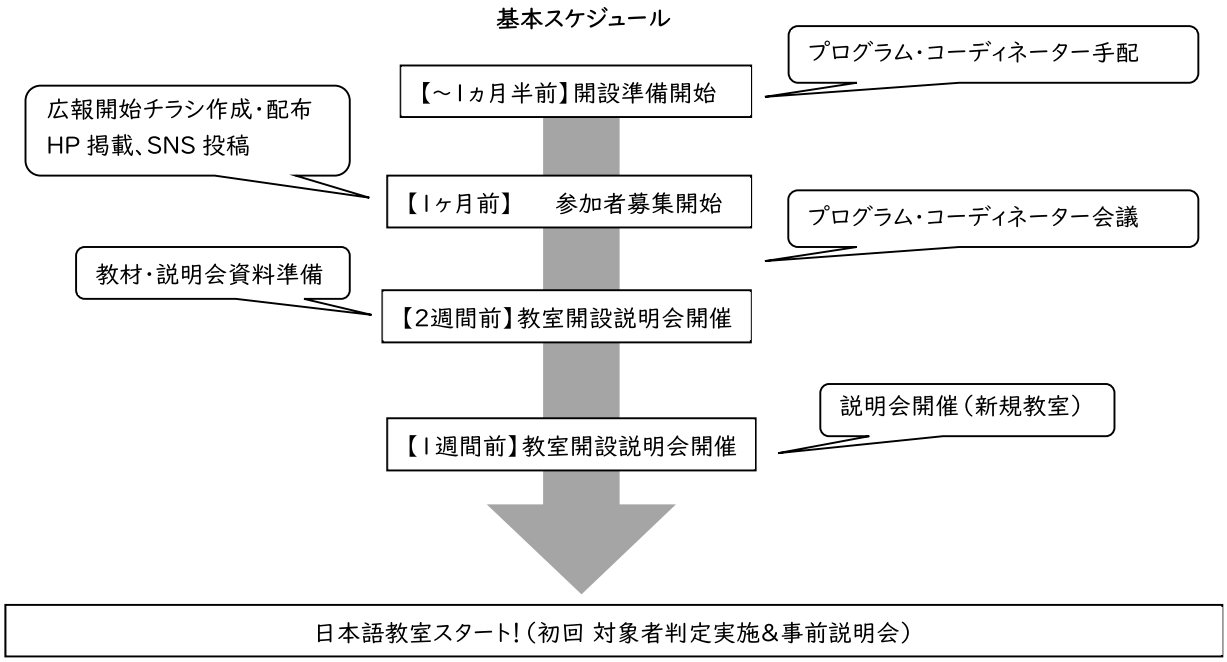

図1　豊田市版の教室開設フロー

④支援の可否判断

システム・コーディネーターは関係者と連携をとりながら、依頼のあった案件について支援を行うことが妥当であるかを検討します。このときの関係者は主に事業主体である豊田市の担当者です。検討される内容は主に以下の4つの項目です。

①支援を行うのが適当な企業・団体等であるか
②前述の【日本語教室開設・運営のための基本条件】を満たしているか
③日時や場所、対象、目的などのその他の条件が妥当であるか
④本システムが対応できる条件・規模か（依頼内容と支援体制のすりあわせ）

以上の4つの項目の検討を行ったら、具体的な支援内容を検討していきます。

そして、依頼者に日本語教室開催に関わるさまざまな手配や開催案内及び学習者・日本語パートナー募集チラシの作成をお願いします。システム事務局はチラシの作成支援もします。学習者募集チラシは、多言語（ポルトガル語・中国語・英語等）に翻訳され、TIA 等のホームページに掲載します。また、印刷したものを教室開設依頼者は社内や地域の掲示板・回覧版等を利用して広報していただきます。チラシには①主催者、共催者の情報、②日程、時間、場所、連絡先、③日本語パートナーとして参加する場合には、外国語の能力や日本語教育の知識がなくても大丈夫であることなどが明記されている必要があります。応募者には、事務局及び教室開設

依頼者側から、対象者判定や事前説明会の開催予定日をお知らせします。

⑤コースデザイン

教室の新規開設、継続が決まったら、教室の運営方針を決定し、その方針に基づいてどのようなコースにするのかを計画します。このコースの計画を「コースデザイン」と呼びます。教室開設前の教室運営方針の決定については「5.役割」の「プログラム・コーディネーターの役割」を、コースデザインの詳細については「7.コースデザイン」をご覧ください。

⑥教室開設説明会

教室の運営方針、コースデザインができたら、それに基づいて「教室開設説明会」「日本語パートナー研修会」「事前説明会」の計画をします。このうち「教室開設説明会」は教室が開設されていなかった地域や企業で新たに教室を開設しようという場合やシステムの認知度をさらに高めようという場合に開くもので、毎回開かれるものではありません。これは「日本語パートナー研修会」も同様です。今まで教室に参加したことがない日本語パートナーが多数いる場合やこれから日本語パートナーをやってみたいという方にシステムの教室運営の理念や方針を理解してもらうために開くものです。これに対して「事前説明会」は新規開設、継続にかかわらず毎回開きます。「日本語パートナー研修会」の詳細に関しては「11.人材育成」の「日本語パートナー研修会」をご覧ください。

ここでは地域内、あるいは企業内で開く「教室開設説明会」について説明します。「教室開設説明会」は日本語教室に興味がある近隣住民の皆さんや企業の従業員の皆さん、そして、日本語学習を希望する外国人の皆さんに集まってもらい、以下の目的で開きます。①とよた日本語学習支援システムの概要を知ってもらうこと、②「主催者は何のために教室を開催しようと思っているのか」を知ってもらうこと、③「どのような教室を開催するのか」を知ってもらうこと、④「日本語学習を支援するために、ひいては住みよい地域社会、働きやすい企業を作り上げていくために、どのようなことに心がけてほしいか」を知ってもらうことです。

具体例を見ながら、それぞれの目的と内容を説明していきましょう。企業内で開催する説明会を例として取り上げます。

①とよた日本語学習支援システムの概要

まず、とよた日本語学習支援システムの概要を次のように説明します。

豊田市は、豊田市に住んでいる外国人、豊田市で働いている外国人の日本語学習を支援するため、「とよた日本語学習支援システム」を運営しています。この「とよた日本語学習

支援システム」は、企業内、地域内で日本語教室の開設、運営を支援しています。
　この工場でも、6月から8月までの 10 週間、日本語教室を開きます。今日は、その日本語教室について外国人の人だけではなく、一緒に働く日本人の人にも理解してもらいたく、この説明会を開いていただきました。

②主催者は何のために教室を開催するのか＝日本語教室開設の目的と意図

　次に、教室の主催者から「何のために主催者は教室を開催するのか」の説明をしてもらいます。例えば次のような内容です。

　今回、この工場内に日本語教室を開きます。

　(工場内の外国人従業員の状況等)

　ただ、日本語教室とは言っても、外国人の従業員の皆さんの日本語を向上させることだけが目的ではありません。この教室開設の目標は、日本人従業員の皆さんと外国人従業員の皆さんが、日本語を使って交流することができるようになる工場にすることです。そして、将来的には、ここが日本人従業員にとっても、外国人従業員にとっても働きやすい工場、働きたい工場になることが教室開設の夢です。

　この説明の後、システムの事業主体である豊田市からもシステムの普及の目的と意図を説明します。

③どのような教室を開催するのか＝教室の概要

　次に、教室の進め方についての基本的な考え方を説明します。

　この教室では、自分の国や家族、友だちや、好きな場所、好きなことを話し合ったり、読んだり書いたりすることによって、自分のことが話せるようになったり、書いたり読んだりできるようになることを目指しています。具体的には以下のような話題を準備しています。
自分自身や家族について話す
家や家の回りについて話す
毎日の生活について話す
趣味、娯楽について話す

　教室活動の進め方や学習の方法を理解し納得していなければ学習の効果を高めることは難しいと思います。ですから、システムが提案する「学び」、「交流を中心とした教室活動の効果」については、説明会、研修会、毎回の教室終了後のふりかえりを通じて繰り返し確認します。

④日本語学習を支援するために、どのようなことに心がけてほしいか

　次に、日本語学習を支援するために、ひいては住みよい地域社会、働きやすい企業を作り上げていくために、周囲の人たちに心がけてほしいことを説明します。この目的は、企業内や地域

内に日本語で話す土壌を作ることにあります。土壌作りとは、まず、少しの内容でかまわないから日本語で交流のきっかけを作ること、そして、交流に際してはお互いに歩み寄る気持ちを持つこと、最後に言語習得は時間がかかることに理解を示す人を増やすことを意味しています。具体的には次のような内容を話します。

この工場が日本人従業員にとっても、外国人従業員にとっても働きやすい工場にするために、以下の点について皆さんにもご協力いただきたいと思います。

毎週木曜日に教室があります。教室で勉強してから仕事に入る人もいると思いますし、仕事の後で勉強する人もいると思います。一言でいいので、日本人の方は、「今日・きのう、何を話した？」と聞いていただければ、勉強をしたかいがあります。
また、勉強している人は、「今日・きのう勉強したのは……」と勉強したことを話してみてください。それが、工場内で始まる日本語による交流です。

最初は質問しても、日本語では答えられないかもしれません。また、何を言っているかわからないこともあるとは思います。でも、結構、理解してあげようと思って聞いていると理解できるものですし、そういう気持ちが伝わることが日本語の上達の最大の鍵、動機付けになります。

また、日本人、外国人を問わず、上手く言いたいことが伝わらなくても、また理解できなくてもあきらめないで精一杯、伝え合う努力を続けてください。身振りを使ってもいいですし絵を使ってもいいですし、何でもいいです。コミュニケーションを続けようと思うことが上達に繋がります。

もう一点、特に日本人の方に注意していただきたいことがあります。日本語の勉強を始めて、すぐに丁寧な話し方ができるようにはなりません。最初はみんな「きのう何した？」「何食べた？」というのも、毎日、耳にしたりすることばが一番理解しやすく、覚えやすいからです。相手がだれかを考えて、ことばを使い分けるというのは、かなり上達してからになります。中には、そういう言葉づかいを不快に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、そんな言葉づかいでも、話さなければ上達はありません。通じるようになって、次に上達があることを理解してください。

⑤日本語パートナー募集

日本語パートナー募集では次のようなことを話します。ポイントは「誰でも交流の意思があれば参加可能」、「来られるときに来てください」と垣根を低くすることです。

いままで説明してきたように、今回開設する日本語教室は、日本人と外国人が自分の国や家族、友だちや、好きな場所、好きなことを話し合う交流を通して、わかりやすい日本語をお互いに身につけていこうとするものです。

ですから、一般的な会話教室のように、先生が一人いて、学生がたくさんいて会話の練習をする、という形をとりません。日本人、外国人が混じり合ってグループを作り、そこで簡単なことを話し合いながら進めていく形をとります。

このような交流を通したことばの学習に興味がある方、そして、ぜひ自分もいろいろな人と

話してみたい、という方は、「日本語パートナー」として、教室に参加していただきたいと思います。「日本語パートナー」とは日本語教室で、外国人学習者の方といっしょに「わかりやすい日本語」で会話をしてくださる方のことです。日本語教育に関する知識や経験などは問いません。事前準備なども不要です。相手を尊重する気持ちと相互理解の姿勢をもって、外国人との交流を楽しみたいという方ならどなたでも大丈夫です。また、毎回でなくてもかまいません。

もちろん、進行役として、システムからプログラム・コーディネーターという専門家が入りますので、「ことばがぜんぜん出来ない」とか不安を感じる方でも大丈夫です。ぜひ、よろしくお願いいたします。

⑥教室概要(日時、場所など)

最後に、教室開催の日時、曜日、場所などを説明して、説明会を終了します。

⑦対象者判定テストの実施

学習希望者を対象に、対象者判定テストを実施します。

この結果によって学習希望者は、①会話クラス対象者、②読み書きクラス対象者、③支援対象外（＝会話能力と読み書き能力の両方が２レベル以上）のいずれかに分けられます。支援対象外と判定された人には、日本語パートナーとしての参加をお願いしたり、対象外の人たちだけで自主運営による別クラスをつくることを提案したり、レベルに応じた他の日本語教室を紹介したりします。

対象者判定結果は、主催者、教室担当のプログラム・コーディネーターと学習者本人に伝えられ、今後の教室運営や目標設定の参考にしていただきます。

もし、この結果により各クラスの学習者人数が ５ 人未満になった場合、そのクラスの開設を見送るか、学習者を追加募集することになります。こうした事態が起こるのを防ぐために、事前にできるだけたくさんの学習希望者（会話クラスまたは読み書きクラスいずれかの対象になりそうな人）を募集しておくことが大切です。

⑧事前説明会

教室初日には事前説明会を行います。

この説明は、教室を担当するプログラム・コーディネーターが内容の検討、進行を担当します。資料は教室の学習者の第一言語に翻訳したものを準備しておきます。

内容は、教室開設説明会と重なる所もありますが、大きく1.とよた日本語学習支援システムの概要、2.教室参加者の役割、3.教室活動の流れ、4.コースの流れ、5.「自己紹介」の教室活動、6.教室概要(日時、場所など)、を説明します。さらに、説明会終了後には「ふりかえり」も

実施します。

1～6の流れを順番に進めるわけではありません。初めての説明会なのか、それとも2期目、3期目と継続している日本語教室の説明会なのかなどの条件によって最も適切だと考えられる進行を考えます。

具体例を見ながら、それぞれの目的と内容を説明していきましょう。これは地域内教室の説明内容の抜粋です。

主催者・事業主体者・システム関係者の紹介と挨拶

最初に教室主催者、システムの事業主体である豊田市、プログラム・コーディネーターなどシステム関係者の紹介と挨拶を行います。教室開設説明会と同様ですが、教室の主催者からは「何のために主催者は教室を開催するのか」の説明を、豊田市からはシステムの運営、普及の目的と意図を説明してもらうようにします。

これ以降は資料に基づいて説明を行います。基本的に学習者の第一言語に合わせた説明資料を準備します。説明はわかりやすい簡単な日本語を使って行います。もちろん、0、1レベルの学習者にとっては、わかりやすい簡単な日本語を使っても理解しにくい内容も含まれています。ですから、できるだけ映像や音声などを使用した説明資料を準備し、教室の流れや役割などは理解してもらうようにプログラム・コーディネーターは心がけるようにしてください。学習者の中には従来の枠組みに基づいた日本語教育を期待したり予想したりして来る人も数多くいます。この説明会では少なくとも「新たなる日本語学習支援の理念」に基づいて教室活動が行われていること、そして、日本語パートナーは語学教師ではなく学習者と交流する役割であることを理解してもらうことを目標としてください。同時に、日本語パートナーには「交流」が学習者の日本語習得を促進することと同時に、日本語習得を促進する交流とは「ただのおしゃべり」ではないことを理解してもらうことを目標としてください。

もちろん、1回1時間半の説明では、深い理解を得られることは期待できないかもしれません。大切なのは、繰り返し理解を深める機会を作ることなのです。その第一歩として事前説明会は大切な役割を果たしています。

1. とよた日本語学習支援システムの概要

まず、とよた日本語学習支援システムの概要と目的を次のように説明します。

概要
豊田市に在住、在勤の外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業です。平成 19 年度の実態調査に始まり、平成 20 年度から実際の教室運営を始めているプロジェクトです。

目的
① 外国人に日本語を学ぶ機会を得てもらうこと。
② 日本人に「外国人にとってわかりやすいコミュニケーション」の仕方を学んでもらうこと。
③ 日本語を／も使って交流する機会を作り、外国人、日本人相互の関係を作り、共に住みやすい地域、働きやすい職場にすること。

2. 教室参加者の役割

日本語教室にはどのような立場の人が参加し、それぞれの立場で何をするのかを次のように説明します。

システムが運営する日本語教室には3種類の参加者がいます。システムから派遣される「プログラム・コーディネーター」、日本語を学ぶ「学習者」、「日本語パートナー」です。

プログラム・コーディーネーター

プログラム・コーディネーターは教室の進行役であり、学習者と日本語パートナーの交流がスムーズに進むようにサポートしていきます。

活動の中でわからないこと、日本語でわからないこと等があれば、プログラム・コーディネーターに声をかけてください。

日本語パートナー

日本語パートナーは日本語を教えるのではなく、学習者と日本語で交流します。この交流を通して、日本語パートナーは外国人にとってわかりやすい話し方を身につけます。

学習者

この日本語教室に来る学習者は、日本語パートナーとの交流を通して、日本語や地域社会に関することを学びます。学習者の日本語レベルは以下のとおりです。

会話クラス　　…日本語で会話がまだできない人
(対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が2レベルに満たない人)
読み書きクラス　　…会話は少しできるが、読み書きがまだできない人
(対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が2レベル以上で、「読む」「書く」の判定結果が2レベルに満たない人)

ここでも「日本語パートナー」は交流を行うことを目的として参加している人であり、日本語を教えることを目的として参加している人ではないということは強調してください。これは日本語パートナーに対してだけではなく、学習者に対しても強調してほしいことです。「日本語パートナー」と「学習者」はお互いについて質問したり答えたりしてもらいたいと思います。日本語についての質問はプログラム・コーディネーターに、という役割分担をしっかり説明してください。

もちろん日本語パートナーが「教えてはいけない」というわけではありません。一言説明すれ

ば納得できることであれば、時間の節約にもなりますし、欲求不満もたまりませんので、説明してもかまいません。大切なことは「一言説明することがその後の交流を活発にするかどうか」で判断することです。

3. コースの流れ

1回目から10回目までのコースの流れを説明します。次のような説明をします。

この教室は、日本語を使って地域に住んでいる人が、お互いが理解しあうことを目的としています。その目的を達成するために、教室ではお互いに伝えたいことを伝え合う活動をしています。そして、最終回では、より多くの人に伝えたいことを伝える活動を予定します。 例)発表会・教室の報告を回覧板に載せる、文集を作成する、など

詳細はコースが始まってからでもかまいませんが、最低限、学習者と日本語パートナーには次の2点は理解してもらいたいと思います。

1)参加者が主体的に作り上げていくコースであること。参加者が話し合って、テーマを選んだり、目標を相談したりして教室活動を決めます。

2)10 回目には、自分だけではなく、他の参加者や主催者、ひいては地域の人々や企業の従業員が教室の成果を実感できるような教室の集大成を示す活動を行います。

4. 自己紹介の教室活動

実際に自己紹介の教室活動を行います。これは、初対面の参加者同士が知り合う場を作ること、実際に教室活動を行うことで活動の進め方を理解してもらうことが目的です。また、はじめてこの活動をした人がそれぞれにどう感じ、それを今後の活動にどう活かせばいいかを「ふりかえり」の時間に話し合うことも大切となります。

5. 教室概要(日時、場所など)

最後に、教室開催の日程、時間、場所、連絡先などを確認します。

6. ふりかえり

日本語パートナーの皆さんには教室の説明や教室活動を通して感じたことを振り返る時間を持ちます。

担当するプログラム・コーディネーターは、研修会や説明会はあくまでも第一歩であるという

認識を持ってほしいと思います。システムが提案する「学び」は体験の繰り返し、さらに、体験した後の「ふりかえり」を通して実感できるものだと考えています。毎回の教室の後で行う「ふりかえり」で、繰り返しこの「学び」について、いろいろな角度から光を当て、考える時間を持つようにしてください。

以上が教室開設依頼・相談を受けてから初回の教室活動が行われるまでの基本的な流れになります。この間のポイントとしては、依頼者及び学習希望者のニーズをしっかり把握することと、実際に教室活動に参加する人（学習者、日本語パートナー）はもちろんその周囲の人たち（会場の管理者、広報協力者、教室外で接する人等）にも教室活動に対する理解と協力をお願いしておくことです。この２点が、その後の教室運営や学習成果に大きな影響を及ぼすことになります。

（令和5年3月改訂）

○○日本語教室（日本語）

①

とよた日本語学習支援システムとは

概要

豊田市に在住、在勤の外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業です。平成 19 年度の実態調査に始まり、平成 20 年度から実際の教室運営を始めているプロジェクトです。

②

目的

(1)外国人に日本語を学ぶ機会を得てもらうこと。

(2)日本人に「外国人にとってわかりやすいコミュニケーション」の仕方を学んでもらうこと。

(3)日本語を／も使って交流する機会を作り、外国人、日本人相互の関係を作り、共に住みやすい地域、働きやすい職場にすること。

③

参加者とその役割

システムが運営する日本語教室には3種類の参加者がいます。システムから派遣される「プログラム・コーディネーター」と、「学習者」、「日本語パートナー」です。

④

プログラム・コーディーネーター

プログラム・コーディネーターは教室の進行役であり、学習者と日本語パートナーの交流がスムーズに進むようにサポートしていきます。

活動の中でわからないこと、日本語でわからないこと等があれば、プログラム・コーディネーターに声をかけてください。

⑤

日本語パートナー

日本語パートナーは日本語を教えるのではなく、学習者と日本語で交流します。この交流を通して、日本語パートナーは外国人にとってわかりやすい話し方を身につけます。

⑥

学習者

この日本語教室に来る学習者は、日本語パートナーとの交流を通して、日本語や地域社会に関することを学びます。学習者の日本語レベルは以下のとおりです。

⑦

会話クラス　　…日本語で会話がまだできない人
(対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が2レベルに満たない人-資料参照)

⑧

読み書きクラス　…会話は少しできるが、読み書きがまだできない人
(対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が2レベル以上で、「読む」「書く」の判定結果が2レベルに満たない人-資料参照)

⑨

コースの流れ

この教室は、日本語を使って地域に住んでいる人、同じ職場で働く人が日本語を使ってお互いに理解し合うことを目的としています。その目的を達成するために、教室ではお互いに伝えたいことを伝え合う活動をしています。そして、最終回では、より多くの人に伝える活動をします。

例）発表会・教室の報告を回覧板に載せる、文集を作成する、など

⑩

【期間】　20**年 1 月 25 日(火)～20**年 4 月 5 日(火)（全 10 回）
【時間】　毎週火曜日　16:30～18:00
【場所】　株式会社〇〇　△△工場内食堂

⑪

その他

【連絡先】　（公財）豊田市国際交流協会
Tel:0565-33-5931　/　メールアドレス:tia-system@hm.aitai.ne.jp
【参考】　とよた日本語学習支援システム　ホームページ
URL:https://www.tia.toyota.aichi.jp/jp-site/

＜参考＞日本語レベル

ﾚﾍﾞﾙ	段階	内容	聞く	話す	読む	書く
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて、自分の身の周りの社会参加が日本語で行える。	簡単な日本語で話してもらえば、質問や単純な指示がわかる。	簡単な質問なら単語で答えることができる。わからないと聞き返したり、ゆっくり話すよう依頼することができる。場所を聞くなど簡単な質問ができる。	外国人にとってもわかりやすく書かれていれば日常生活で接する機会の多い語や文の意味が理解できる。	五十音図や辞書を調べたり、人に助けてもらいながら日常生活で必要度が高い手紙などの短いメッセージが書ける。
1	基礎段階	限られた単語を理解したり、話す・書くことができる。	「名前は？」のような簡単な質問がわかる。はっきりゆっくり言ってもらえば、自分のよく聞き慣れたものの名前や地名などが聞いてわかる。ものの値段や曜日、日付、時刻などが聞いてわかる。	日常生活で必要度が高く、接する機会の多い語であれば出身や居住地域、電話番号、時間、値段など基本的なことが単語で言える。	ひらがな、カタカナ、漢字で書かれた自分の名前、国名など日常生活で必要度が高く、接する機会の多い語であれば理解できる。	名前、国名、住所、所属など使用頻度や必要度の高い語をひらがな・カタカナ・漢字のいずれかで書ける。
0	未学習段階	日本語を話したり聞いたりすることがほとんどできない。	あいさつや自分の名前を呼びかけられていることがわかる。	あいさつができる。名前が言える。		